



[写真10]甲南大学の被災校舎はすでに撤去されており、その北側の六甲山麓の斜面に開発された無被害の住宅がかえって目に付く（東灘区岡本，6/4撮影）。



[写真11]阪急神戸線で被害の大きかった東灘区野寄の復旧現場と隣接した古い無被害住宅（6/4撮影）。



[写真12]阪急JR間の山手幹線に面した無被害のブロック塀と石垣（東灘区岡本，6/4撮影）。



[写真13] JR摂津本山駅南側で1階部分が圧壊したマンションはまだ解体作業が行われていない（東灘区田中，6/4撮影）



[写真14]東灘区魚崎北町の一帯には特に木造住宅の被害が集中していた（3/5撮影）。



[写真15]同じ魚崎北町一帯の取り壊し完了後の状況（6/4撮影）



[写真16] JR 鷹取工場内では0.67g, 140cm/sに達する強震動が観測されていた(6/3撮影)。



[写真17] 鷹取駅南口の建物にはさほど大きな被害は認められない(須磨区行平, 6/3撮影)。



[写真18] 鷹取駅南側の広域火災現場(長田区海運, 6/3撮影)。



[写真19] さらに南の阪神高速では柱の補強工事が行われていたが被害は差程でもない(同左)。



[写真20] 芦屋浜団地(芦屋市若葉, 6/4撮影)。



[写真21] 鉄骨主柱2階の脆性破壊部分の補強状況。周辺の住宅隅角部に小被害(同左)。



[写真22] 同じく1階脆性破壊箇所の補強状況(同左)。



[写真26]上：神戸商業高校管理棟の被災状況(2/20).
 [写真27]中：同上建物の解体工事中の状況(3/8).
 [写真28]下：同上建物の解体撤去後の状況(6/4).
 (東灘区西岡本)



住吉川鉄道トンネル

明治7年(1874年)に神戸と大阪を結ぶ鉄道が開通し、その間に三ノ宮・住吉・西ノ宮・神崎の駅が設けられた。集落のある沿岸地区は汽車のゴヘラ(石炭)の煙で酒が腐るといふ酒造家の反対で山麓部に変更されたが、そこでは石屋川、住吉川、芦屋川が天井川を形成していたため困難な川底トンネルを掘らねばならなかった。現在石屋川トンネルは高架化工事のためなくなったが、この住吉川と芦屋川はトンネルが健在で川の下を線路が走っている。

東灘区役所

[写真23]上：住吉川鉄道トンネルから上流を望む。
 [写真24]中：住吉川は鉄道トンネルの上を流れる。
 [写真25]下：その説明(東灘区住吉東, 8/4撮影)。

